



## 第 23 回総会・講演会を開催

9月21日(日)午前10時30分から新宿区市谷のJICA地球ひろば国際会議場にて、45名の会場参加者に54名の書面参加を得て定足数を満たし、有効に開催されました。

加納啓良理事長の開会挨拶に続き、参加者の互選で正会員の齋藤利治氏が議長に選出され、議事に入りました。西澤逸実理事から2024年度の事業報告及び決算報告が示され、大石純監事から監査報告があり、いずれも承認されました。続いて小関高志理事から2025年度の事業計画及び西澤理事より事業予算が示され、いずれも承認されました。

小関理事より、8月2日付け理事会で深尾和一監事が辞任、大石純監事が選任され、西澤理事が事務局長を辞任、小関が事務局長に選任され、他の役員は重任されたことを報告した他、

役員の紹介が行われ各役員の担当業務についての説明と、奥山寿子副理事長を総括として会員コミュニケーションを役員全員でサポートして向上していく方針が報告されました。武田高理事はオンラインで総会に参加し、11月1日に神戸で開催予定の西日本交流会の説明がありました。

続いてIメイトオブザイヤーの表彰式があり、2024年度は正会員横山茂明さんが選ばれました。

加納理事長より、表彰状と副賞の上野千鶴子氏の著書『こんな世の中に誰がした』が授与され、横山さんから受賞のご挨拶があり、会場からは盛大な拍手が送られました。午前11時30分に総会及び表彰式が閉会となりました。

(事務局長 小関 高志)



## 上野千鶴子氏講演会

## 「日本の高齢者福祉 これまでとこれから」

午後の講演会は、一般やオンラインの方も加わり125名で始まった。

上野先生は、日本の超高齢化社会は、世界のどの国と比べても恵まれている高齢者福祉制度(医療保険・年金・介護保険)が支えていること、特に介護保険は40歳から支払い、国籍関係なく65歳以上から受給可能、財源は税と保険の折衷方式により確保されたことで、高い利用限度額と低い本人負担(1割)が実現したと説明。

さらにケアマネージャー制度による介護の資格・専門化で、利用者と事業者間の契約関係が成立し、女性の無償奉仕が支えてきた介護を社会的契約関係に変えたと讚えた。しかし、その後の介護保険法の改定で応益負担から応能負担へと変わって受益者を減らし、さらに低賃金による介護人材不足が起こり、訪問介護事務所も激減した。資源・人材が必要な「在宅ひとり死」が危うくなってきた。このままでは「在宅という名の放置」になりかねず、介護保険制度は今や崖の上に立っていると警鐘を鳴らした。

一方、高齢化は少子化へ繋がる。少子化は非婚率の高さも原因の一つで、コスト高の家族形成と家族規範という圧で結婚を事前回避する若者が多いため。また、女性の労働力化にはケアの労働力化と市場化が欠かせず、日本はどちらも低い。では、どうするか・・・当事者主権が社会を変えるので、自ら活動することが必要と、「ケア社会を作る会」への参加・活動を紹介した。

\* 10月発行の『別冊Iメイト便り』21号で特集を組みます。

(正会員 浅山 久美子)

## 人事異動

事務局長退任 西澤逸実さん  
 新事務局長 小関高志さん  
 監事退任 深尾和一さん  
 新任監事 大石純さん  
 コーディネータ



タマサート大学 退任 富平茂さん 新任 千歩和人さん  
 架け橋グループ 退任 小関高志さん 新任 小山昌久さん

## Iメイトオブザイヤーに選ばれて

アジ風に入会してわずか3年弱の私が今年のIメイトオブザイヤーに選ばれ表彰して頂くことになり、自分としては特筆すべきことをしてきた感覚はなく、面映ゆい限りです。

これまで4大学の学生さんと交流を続けてきましたが、私の励みになっている原動力は、私自身が交流を心から楽しめていることです。私から学生さんにメールを送れば、返事が届くののを鶴首して待ち、返事が届いたら嬉しくて何度も読み返しています。

メールだけでなくLINEなどSNSも使った簡単な日常の報告、そして希望に応じてビデオ通話も楽しんでいます。ビデオ通話のテーマは特に定めず、旅行、季節の行事、学校での出来事、卒業後の進路など、その時々に応じた話題で交流を図ります。メールのやりとりと比べて、会話は少々苦手なようですが、懸命に話そう、聞こう、という学生さんの真摯な姿勢が会話能力の向上に着実に繋がっていきと信じています

今回の受賞に感謝すると共に、Iメイト交流によりアジア諸国の皆さんが日本への理解を益々深めて下さるなら嬉しいです。

(正会員 横山 茂明)



## 日本が誇る介護保険

ジェンダー論の先頭に行く上野千鶴子氏が講演に来られるのでワクワクして待っていた。ところが講演日の数日前に姉が入院した。最近88歳の夫が食事を作り買い物に行くなどしていた。姉は「昔は私が食事を作っていたので今度は旦那が作る番」とうそぶいていた。病院では食事も点滴も拒否し家に帰りたいたっていらしいが、「今日は賑やか。いつもは寂しい。」と嬉しそうだった。

姉の瘦せた手を握りさすりながら命の事、費用の事など考えていた。上野氏の「手を握ってあげるの最高」の言葉が嬉しい。そして「介護保険は介護を市場化し家族を負担から解放した。それが今危機に瀕している」とも。どうする日本の介護。

(正会員 石橋 順子)



## 「第40回大同生命地域研究賞」の受賞

### 受賞おめでとうございます

加納啓良理事長が、2025年度大同生命地域研究賞を受賞されました。「インドネシア並びに東南アジアに関する社会経済史研究」

に対しての評価で、長年の研究成果が認められました。

アジ風においては、パジャジャラン大学との交流について、多くのアドバイスをいただき、私たちもインドネシアに対する見識を高めています。  
(副理事長 奥山 寿子)

### 加納理事長受賞の詞

このたび「第40回2025年度大同生命地域研究賞」を頂きました。この賞は、現在の大同生命保険株式会社により1985年に設立された「大同生命国際文化基金」が、アジア、中東、アフリカ、中南米、オセアニア等の発展途上地域（または周辺・辺境地域）における人間の営みにつき、地域に密着した実証的手法により解明を試みる学術的研究の成果を挙げた



研究者に毎年授与するものです。

私の場合、ジャワの農村経済研究から出発しこれまで半世紀以上にわたり行ってきたインドネシアと東南アジアの社会経済史研究が評価の対象となりました。賞の贈呈式は去る7月29日に大阪で行われました。その記念写真を添付します。(前列中央です)

(理事長 加納 啓良)

## I メイト交流交歓会

7月21日、Iメイト交流交歓会をオンラインで開催し、新入会員7名を含めた正会員36名が参加しました。

Iメイト交流コーディネータ5名の自己紹介と交流校の紹介から始まり、第2部ではタマサート大学担当の富平茂さんから初めてのIメイト交流や考慮点についての紹介、コーディネータからだけでなくIメイト会員の立場からのアドバイスも伺いました。

第3部ではIメイト交流担当理事の三木京子さんがIメイト交流実態調査の結果についてまとめを発表、グラフを活用して現状を詳しく解説しました。

第4部では最近の交流課題になっている「会話交流」について、「初めての会話交流、経験者の座談会」と称して、横山茂明さん、山田稔さん、浅山久美子さんから会話交流のコツや経験談、アド

バイスをいただきました。

座談会後は7つのグループに分かれ、会員同士でのざっくばらんな話し合いの場を持ちました。新会員からの質問や日本の若者の内向き姿勢まで幅広い話題で親睦を深め、新入会員の皆さんからは「次



〈コツを話す3人と司会者〉

のマッチングには参加したい」という声も上がったようです。交歓会で得られた情報を、ぜひ今後のIメイト交流に活かしていただければ幸いです。

(Iメイト交流担当理事 川口 祐子)

### Iメイト交流交歓会感想

10年前、Iメイトへの私の初めてのメールは、不安と期待でいっぱいでした。何を書いたらいいのか、どんな日本語で書くのか、はたして返事は来るのか。



今回の交流交歓会は、Iメイト交流を始める皆さんに、アジ風が長年多くの失敗を経験しながら蓄積してきた様々な交流ノウハウをお伝えする絶好の機会となりました。続く懇談会では本音の交流経験が披露され、失敗談、成功談など新規交流の方々にも大いに参考としていただけたと感じました。私も多くの失敗を経て、メールもLINEも気長に待つのがよいと学びました。

(正会員 武田 高)

### 「幸せ」の価値観

アジアとの出会いはフィリピンでした。近所に住んでいたフィリピン人の友人の家に初訪した時です。「初めて来たのに懐かしい」よく聞く言葉ですが、実感したのは初めてでした。



どんな環境でも、いつも家族がそばに居て笑い合い、温かく迎え入れてくれる彼らと過ごし「幸せ」の価値観とアジアに対する見方が大きく変わりました。

仕事でお世話になっている北郷和博さんにアジ風を紹介して頂き、即入会を希望しました。そして出席したIメイト交流交歓会で、改めてその感を深くしました。

Iメイト交流にも臨みたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。  
(正会員 兼平 真澄)

## アジ風奨学生レポート

### アジ風との出会いが私の進路を導いてくれた

大学時代、アジ風メンバーの曾我部健さんと手紙のやり取りをしたことが、私にとって大きな転機となりました。大学卒業後、恩師の推薦をいただき、神戸大学大学院経済研究科に進学しました。将来への不安と期待が入り混じる中でアジ風の奨学金制度を知り面接を受ける機会を得ました。

大学院では国際金融のトリレンマと発展途上国への影響というテーマで研究を行いました。国際金融のトリレンマとは、「為替レートの安定」「資本移動の自由」「独立した金融政策」の三つを同時に達成することができないという理論です。研究を通じて、発展途上国が持続可能な成長を目指す上で何が必要かを深く考えるようになりました。

現在は、日本の伝統文化のひとつである「お香」のものづくりに携わっています。香りを通じて人の心に働きかける仕事には、経済学とは異なる深い魅力があります。完成したお香は、日常の

ひとときに寄り添う存在として、使う人の心を穏やかに整えてくれることを日々願いながら仕事に取り組んでいます。どんなに小さな作業でも、そこに心を込めることが、最終的に人の心に届く香りにつながると感じています。



アジ風の活動を通じて、国境を越えて人とつながることの意味や、アジアの未来を考える視点を身につけられました。社会人になってから、改めて自分の在り方というものの大切さを感じるようになりました。知識やスキルももちろん必要ですが、それ以上に、日々の仕事の中で問われるのは、自分の姿勢や人との向き合い方です。相手の立場に立って考えること、異なる価値観を受け入れること、そして何より、自分の信念を持ち続けること。

今後も、アジ風の理念を胸に、アジアの持続可能な未来に貢献できるよう努力していきたく思います。

(第4回奨学生 賛助会員 ドウ・アイン・トゥ)

アジ風山歩き

アジ風山歩きは留学生と会員、誰もが自由に参加できる交流イベント。2018年にスタートし、毎年2回の実施で、13回目となりました。今回は、6月の新緑の中、自然と歴史が息づく古都で「鎌倉アルプス（天園コース）」に18名が参加。



〈左端が筆者〉

北鎌倉駅を起点に山道に入り、稜線からの相模湾、若宮大路等の街並み展望はもちろん、歴史を伝える横穴式の墳墓、点在する石仏。下山後も永福寺跡、鎌倉宮、源頼朝墓を巡り、満開のあじさいを愛でながら鎌倉らしい風情を楽しみました。

締めくくりは鎌倉駅前での懇親会で、飲み、食い、おしゃべりで疲れを癒やしました。

次回は11月22日に南高尾山稜を予定。改めてメール案内を送りますので、奮ってご参加ください。

(正会員 奥山 正昭)

8月23日、法政大学第二中・高等学校での発表

私達は、高校生や日本人の参加者の方々にベトナムを紹介する機会を頂きました。民族衣装「アオザイ」を着て、国民的スポーツのダーカウで使う羽根やベトナムのお金を紹介し、ベトナムの「あるある」の一つである「デーバオ」（サッカーの優勝時の大騒ぎ）の様子も動画でお見せしました。最後はクイズを行い、賞品はベトナムのフォーでした。

参加者の皆さんは終始笑顔で聞いて下さり、楽しんで下さいました。発表後には高校生から「ベトナムに行ってみよう！」「今度はもっと長いバージョンも聞きたい！」という声、また、年配の参加者から「Amazonでダーカウを買って、孫と遊びたい」との声が上がりました。学校の先生からは、「また交流の機会があれば、ぜひ来てください」とのお言葉を頂き、大変嬉しかったです。



〈左 キエンさん 右 ジュエンさん〉

キエンは、ベトナムについて発表する初の機会だったため、少し不安もありましたが、皆さんの笑顔を見て、リラックスして話すことが出来ました。本当に貴重な経験でした。今後もまたベトナムをたくさん紹介していきたいと思います。

ジュエンは以前、北海道で国際交流員として発表をしたことがあります。今回久しぶりの機会をいただき、当時の日々を懐かしく思い出しました。これからも、これまでの経験を活かせる場があれば嬉しい限りです。

(賛助会員 グエン・コン・キエン ライ・テイ・ジュエン)

中日をつなぐ小さな橋に

6月25日に娘の王家淇（オウカキ）が生まれました。母になってからは今までにない幸せを毎日感じています。

小さな体で笑ったり泣いたりするだけで、こんなに心が満たされるんだなあ実感しています。その一方で、母親としての新しい心配事も増えました。病気になるか、どこかで迷子にならないか、誰かに傷つけられないか……ふとした時にいろいろ考えてしまいます。



世界は今いろんなことが起きていて不安定ですが、それでも娘には一生、平和な世界で生きてほしいと願っています。また、将来は中国語と日本語のバイリンガルになるはずなので、その力で中日をつなぐ小さな橋になってくれたらうれしいです。

これからの成長をどうぞ温かく見守ってくださいますようお願いいたします。

(賛助会員 王 鶴)

嬉しいご報告！

6月に第一子となる男の子を出産しました。妊娠後期に日本からシンガポールへ引っ越し、現地で妊婦健診を受ける中で、日本との医療スタイルの違いをたくさん感じました。国によってこんなにも違うのかと、興味深い体験でした。



妊娠から出産までの道のりも長かったですが、これから始まる子育てはさらに長く、奥深い旅の始まりだと感じています。

初めての育児は戸惑いの連続で、事前に本を読んで準備していたつもりでも、実際は毎日が新しい発見ばかりです。最初の2か月は母の助けを借りて乗り越え、今は夫と協力しながら息子の世話に奮闘中です。

日々成長する息子の姿に、たくさんの幸せをもらっています。その一部を皆さまにもお届けしたく、写真をシェアします。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(正会員 チャン・トウ・チャン)

会員紹介

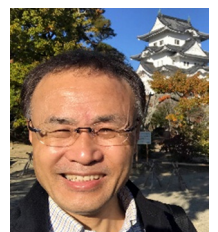
千歩和人さん

千歩（せんぷ）さんは1960年西宮市の生まれです。筆者も阪急ブレーブズのファンだったこと、西宮球場に応援に行ったことなどで盛り上がりました。

高校から入った六甲学院はカソリックで躰けの厳しい学校でした。学校に着くと直ぐ運動着に着換え、2時間目が終わると季節を問わず上半身裸になって運動場を何周も走るのです。登下校時の挨拶の励行や、便所掃除もあったのだそうです。

1983年にブリヂストンに入社され、国内外の自動車メーカーや欧米の航空機メーカー・航空会社などへの営業を担当されました。1994年から1998年まではベルギーとスイス、2005年から2009年まで再びベルギー、そして2014年から2017年までトルコに駐在されました。中でもトルコの思い出が深く、イスラム教国でありながらイスタンブールはさほど厳しくなく、ラマダンもありましたが、お酒を飲むことも自由でした。親日国でこちらが日本人だとわかると「チャイ（紅茶）でも一杯飲んで行けや」と家に呼び入れてくれたりしました。

自爆テロなどがあり、危険と隣り合わせでしたが、トルコ人は「死ぬときは死ぬ。すべてアッラーの思召し」とあっけらかんとしていて、ある時部下の結婚式に招かれたものの、式場は軍事施設の隣で命懸けでした。



これまでにタイ、ベトナム、インドネシアと3人のIメイトと交流しましたが、メールに加え今はLineを利用して気軽に交流しているものの、日本語を教えるという点では少しツール面で使いづらさを感じるという事でした。

今年ハノイ貿易大学交流訪問時、日本文化の紹介（習字やカルタ）に対しての学生の熱心さ、純粋さに心打たれたそうです。

この秋からは富平茂さんの後を継いでタマサート大学のコーディネーターを引き受けてくださいました。楽しい交流が期待できそうです。

インタビュアー：園田 成和



## 歴代のアジ風奨学生があつまりました

アジ風奨学基金は、アジ風の設立者である上高子さん（現名誉顧問）とご家族からのご寄付をもとに2015年に創設され、引き続き会員有志のご寄付を得て、10周年を迎えました。設立の趣旨は、アジ風で会員と交流した学生たちが、卒業後、日本の大学院で研究し、将来はアジ風の中核として活動、あるいは日本と母国の架け橋になると期待される学生を経済面で支援するというものです。現在までに7名の奨学生に奨学金を供与しています。

7月26日に、そのうちの6名が集まって、近況を聞かされました。参加者は、仲村クスマーさん（タマサート大学）、王鶴さん（清華大学）、ドウ・アイン・トゥさん（ハノイ貿易大学）、ド・フォン・アインさん（ハノイ貿易大学）、第6回生の施奕敏（シエキピン）さん（清華大学）、7回生のレ・ゴック・トゥイさん（ハノイ貿易大学）第2回生の王隼淇さんは仕事のため不参加でした。

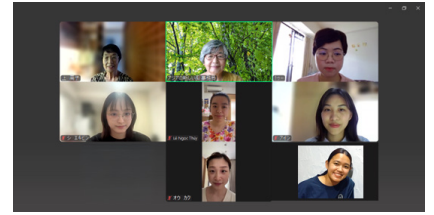
社会人3名、今秋に卒業で日本での就職が決まっている人が2名、あと1名は来年の春に卒業予定です。それぞれがアジ風との関わり、Iメイトとの思い出、研究内容や現在の仕事内容、今後

のアジ風活動への提言などを話してくれました。うれしいことに、アジ風での経験や日本留学が彼らの人生に大きな意味を持っていることがわかりました。

日本と母国との関係もそれぞれの利害関係、地政学的な関係で波がありますが、基本的に「人間同士・個人の絆を深め、交流の幹を太くすることが草の根の交流の基本であること。ひいては武力によらない紛争の解決を目ざす」を出席の皆さんも実感していることと思います。日本で学んだことを生かして、広い視野も持つ人に成長してくれることを願っています。

詳しい内容は『別冊Iメイト便り21号』（10月発行予定）に掲載します。

（奨学基金担当理事 奥山 寿子）



## 郑祎霖 (Zheng Yilin) さんと私のメール交流

2023年10月から始まりましたが、残念ながら日本留学中に一度も会うことはできませんでした。10か月という短い留学期間にも関わらず、日本を満喫したようです。帰国前には関西を旅し、名古屋・大阪・京都などを訪れました。日本の交通は全国どこへでも電車で行けるのがとても便利と聞いていましたが、ちょうど大雨の影響で新幹線が運休したり、長い時間待たされたりして、少し不便にも感じたそうです。



日本で印象的だったのは、駅前の飲食店の長蛇の列です。宇都宮駅前の餃子店や一蘭ラーメン、豚山ラーメンなどで並んで待っている光景は、中国では気軽に食べられる料理に列を作ることがないので、とても不思議だったとのこと。さらに日本の買物の便利さにも驚きました。駅前に大きな百貨店があり、東急ハンズのように多種多様な商品が揃っていて、生活に必要なものは殆ど買え、商品の包装も丁寧で、細やかな心配りを感じたそうです。中国ではネット通販を利用することが多く、百貨店での買物体験は新鮮だったようです。



日本での体験が彼女にとって特別な思い出になり、嬉しく思います。今後の彼女の活躍を心より応援しています。

（正会員 坂野 仁美）

## 各大学の特徴を感じる「おしゃべりの場」

タマサート大学、パジャジャラン大学、貿易大学の学生と日本人会員で「おしゃべりの場」を始めてもう3年以上になります。各大学とも年間3～4回の開催です。今回は各大学の試験と夏休み開始の間を縫って行ったので同じ時期に集中してしまいましたが、3大学の特徴を主催者として肌で感じました。



大学、グループによって話題〈7月12日タマサート大学〉はさまざまです。タマサート大学はとてもゆったりとした感じで、食べ物の話、日本に短期滞在で来日した学生の経験談などを中心に話に花が咲き、タイが大好きな会員とタイの食べ物の話で盛り上がりしました。

パジャジャラン大学の学生はアニメやJ-POPで日本語を始めた人も多く、大学での盛大なJapan Festivalの写真を見せてもらい、日本ブームを実感する事ができました。貿易大学は訪問ツアーの後だったため、会員からはハノイ訪問で気になったベトナム市内の交通事情などに多くの質問が集まり、あっという間の楽しい時間でした。

学生からは小人数で、学生主導で、もっと頻繁におしゃべりしたいという嬉しい希望が出ています。今後どのように発展するか、今から楽しみです。

（理事 古海 正子）

訃報 元理事の中村一郎さんが8月4日にご逝去されました 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

### 今後の行事予定

<http://www.npo-asia.org>  
[new-wind2006@npo-asia.org](mailto:new-wind2006@npo-asia.org)

10月24日 - 26日  
タマサート大学訪問

11月1日  
西日本交流会

### ・・・編集後記・・・

うつけみの世は常なしと知るものを秋風寒み偲びつるかも（万葉集巻3-465番）  
監事から理事になられアジ風活動に尽力された中村一郎さんがご逝去されました。柔和な笑顔で親しくお話しくださった姿が浮かびます。こころからご冥福をお祈り申し上げます。  
酷暑続きだったこの夏、全盲の青年のガイドヘルパーをした。右肩を貸し、彼の歩幅と同じリズムで歩きながら会話はあふれ出す。その彼は「ここはコンビニですね。橋を渡っていますね。公園に来ましね」と言う。コンビニは独特の匂いで、橋の上は水音で、公園は風の吹き方で判るらしい。常日頃いかに眼だけに頼っているかと思ひ知った。

今後、Iメイト交流はメール交換の文字交流に加えて、耳を基とする会話交流に移行してゆくのも時流であろう。パイ生地のように、重ね合わせながら交流を楽しみたいと思う。

（原谷 洋美）